

先行き警戒感強まる

新型コロナウイルス感染症で市場動向見通せず

≪3月のプレカット調査≫

新型コロナウイルス感染症の影響で、先行きの住宅市場動向がプレカット工場間でも見通せなくなってきた。3月の全国プレカット各社の平均受注（各エリア平均の全国平均）は95・2％（前年同月比5・2％増）と、3カ月連続で100％は割ったものの、6カ月ぶりに増加した。稼働は直近の2019年12月を大底に、20年1～3月では前年並みかやや低い。資材需給はこの1年余りの間で最も均衡しており、価格変動も少なくなっている。

本紙が全国のプレカ 調査（別表）による
ット工場27社を対象に と、20年2月の稼働平
実施している稼働状況 均は86・8％（同0・

3％減）と4カ月ぶりに増加したが、2カ月連続で100％を割った。受注、稼働ともに2カ月連続で100％を下回った。

2月半ばから、新型コロナウイルス感染症に対する社会的な警戒感が高まると同時に、中国製資材の供給停滞が住宅建設を直撃している。目立つのは大手建材メーカーのトイレやキッチン、風呂など

の住設にかかわる部材だが、それらを施工する際の配管などにかかわる細かい資材も手に入らなくなり、工事が止まっている。さらには釘やビス、金物やドアノブ、蝶番、石、タイルなども不足感が強まっており、零細の工事業者は仕事にならず、存続が危ぶまれている。そのため、引き渡しに間に合わせるためか、建設現場などで資

3月のプレカット稼働率調査 <全国平均表>
単位：％、（ ）内は前年比

	2月(稼働)	3月(受注)	4月(見積もり)
北海道	72.0(105.0)	82.5(90.0)	85.0(82.0)
東北	— (—)	— (—)	— (—)
関東	85.0(118.8)	95.3(139.5)	83.3(106.7)
中部	92.3(98.3)	96.3(94.0)	112.0(105.3)
関西	95.0(110.0)	90.0(105.0)	85.0(85.0)
中国	102.5(105.0)	102.5(102.5)	80.0(95.0)
四国	80.0(85.0)	90.0(100.0)	90.0(90.0)
九州	81.0(76.0)	110.0(—)	— (—)
全国平均	86.8(99.7)	95.2(105.2)	89.2(94.0)

※全国平均に回答なしのエリアは含まず

の、いずれ何らかの形で出ることも考えられる。大手住宅会社の展示場では2月下旬から、市民が外出を控え始めた影響で、来場者が激減している。

ここにきてプレカット市場をけん引してきた分譲ビルダーも、供給過多で完成在庫が増えて19年末ごろから建設意欲は一服。それでも、20年は東京五輪開催の後に物流も含め動きが鈍めなくなるため、開催の前に建て切ろうといった思惑が少なくな

かった。しかし6月の完工を目指す場合、資材供給は4～5月になるが、新型コロナウイルス感染症で先が見通せなくなり、ビルダーも方向を見失っている。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が欧州材のコンテナ不足にもつながり、内外メーカーの供給減も現実味を増してきた。加えて3月第1週に最大手プレカットが在庫不足で集材の現物をかき集め、流通在庫が減少。不需要期でもあるため市場に不足感が出ていないものの、先行きの警戒感を生む要因にはなった。Rウッド平角の先物相場は小幅値上げが通ったもの

の、国内の情勢があまりに不透明なため価格転嫁の難しさを指摘する工場もある。